

平成28年度 第2回 平塚市美術館協議会 会議録

開催日時 平成29年3月15日(水) 13時30分～15時00分
開催場所 平塚市美術館 研修室
出席者 会長 水沢勉
副会長 河野孝博
委員 栗木雄剛、宮澤達寛、加藤宏、後藤真由美
事務局 高橋社会教育部長、草薙館長、小林副館長、土方館長代理、
近藤担当長、勝山学芸員、江口学芸員、家田学芸員
傍聴者 1名

会議の概要

- 1 開会
- 2 委員紹介
- 3 職員紹介
- 4 議題
 - (1) 平成28年度の事業報告について
これまでの事業報告(事務局から説明)
作品 展覧会 教育普及 その他の事業 施設利用者等の統計
 - (2) 平成28年度奏プラン事業の点検評価について(事務局から説明)
 - (3) 平成29年度の事業予定について(事務局から説明)
展覧会 教育普及
 - (4) その他
- 5 閉会

部長あいさつ

委員の皆様には、年度末のお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

平成28年度第1回平塚市美術館協議会の中で美術館予算の御要望をいただきました。平成29年度予算が近々決まりますが、美術分野だけでなく、スポーツ分野など厳しい財政状況であります。職員が知恵を絞って事業をやっていきます。

委員の皆様には、平成28年度事業及び平成29年度事業予定の御審議をどうぞよろしくお願い申し上げます。

議題及び質疑

- (1) 平成28年度事業について これまでの事業報告
下半期の展覧会事業、教育普及事業について、内容・会期・関連事業等を事務局から説明。

その他の事業、施設利用者等の統計、施設の管理や防災訓練等の内容等を事務局から説明。

展覧会事業について

会 長 香月泰男氏、丸木位里・俊夫妻、川田喜久治氏とどのような関係から小栗康平映画監督が講演会や映画上映会を実施したのか経緯を知りたい。

事務局 NHKの日曜美術館の本編で扱っていただくことになり、日曜美術館のゲストとして、また、なかなか接点が見つげにくい3者の展覧会図録の総論を書ける方として、小栗監督は映像や絵画に詳しい方でありましたので、日曜美術館の出演と講演会を依頼し、映画の上映会も実施した。

教育普及事業について

委 員 小学生対象の対話による美術鑑賞は、どのくらい時間をかけて実施しているのか。

事務局 学校での事前授業は1時間45分くらい、美術館展示室で1時間から1時間半くらいで実施している。対話による美術鑑賞をした後、脳が活性化するので、必ず一人で作品を観ていただくには1時間半くらいは必要となる。児童が主体的に参加するので学校側の満足度も高い。美術館の目玉事業に育てていきたい。

今年度3校実施予定が、評判がよく6校で実施した。

会 長 教育普及事業は、将来的に美術館を支える事業である。

施設利用者等の統計について

会 長 ミュージアムホールの5月・8月・10月はDVD上映のため利用日数はないとなっているが実際はホールを使用している。利用日数等を数値化することによって、どう利用しているか示すことができ、また利用している人が少ないようであれば上映DVDの内容を検討するなど工夫の余地はある。参考として数値化があってもよいのではないか。

事務局 美術館事業でホールを利用し、貸出は行っていない。展覧会により親しんでいただくようにDVDを上映し、展覧会を観る前または観た後に利用いただいている。

委 員 地震等の非常時の所蔵作品の管理状態は、どのようにしているのか。

事務局 収蔵庫は水が入らない設備となっていると設計会社に確認している。基本的に収蔵庫の作品は倒れない構造になっている。展示室の作品も今までの地震規模では倒れない構造になっている。津波に関しては7メートル位まで来ると予想されているが特別なことはしていない。但し、1年に1回避難誘導等を含め防災訓練を実施している。

会 長 非常時に保存担当の学芸員がいるか。

事務局 専任の学芸員はいないが、みんなで協力して保存にあたります。

(2)平成28年度奏プラン事業の点検評価について

平塚市教育振興基本計画(奏プラン)の概要及び「魅力ある美術展覧会事業」ほか4事業の点検評価について、協議会委員の意見や美術館の取組み等について事務局から説明。

奏プラン事業の点検評価について

会 長 奏プランは平成22年度に始まり前期と後期に分かれている。前期を総括した評価はある

のか。単年だけではなく、10年間全体が見えるデータのまとめ方がよいのではないか。

事務局 前期が終了した段階で目標等の見直しを実施し、後期5年間について目標の数値化をした。今後協議会で、全体が見えるように奏プランの取組み経過のお示しをさせていただきたい。

委員 新しいレストランの経営者が公募して選考されたとなっているが、何者応募があったのか。

事務局 個人経営、法人経営を含めて5者であった。

委員 選考にあたり、どういう点が選ばれた理由なのか。

事務局 約1か月半ぐらいの公募期間を設け、11月半ばにまず書類選考を実施し、その後に面接を実施した。書類選考は10項目、例えば応募の動機、スタッフ運営、メニューなど。面接では、経営者本人から経営方針などを聞いた上で、新経営者を決定した。

(3) 平成29年度の事業予定について

下半期の展覧会事業の内容・会期・関連事業等、教育普及事業の主なワークショップの内容等を事務局から説明。

その他の事業の内容等を事務局から説明。

展覧会事業について

委員 開催日数はどのような判断基準で決められているのか、観覧料の違いは何かを伺いたい。協力会社等は様々あるが、実際どのようになっているのか。夏のプラティスラヴァ世界絵本原画展で、図書館と博物館との具体的なコラボ事業について伺いたい。

事務局 開催日数はなるべく長く取りたいが、企画展の場合、ほとんどが借用作品である。特に日本画や版画は弱いので、展示に関して日数制限がある。油絵に関しては1月半から長くて2月である。また複数館で実施する巡回展の場合、日数に限りがある。

観覧料に関しては、条例で企画展観覧料の上限が決まっている。展覧会の規模によって館内で協議して、教育委員会で観覧料を決めている。

協力等に関して、なるべくスポンサーを探したい。例えば、主催者は平塚市、スポンサーを探して協賛、協力、後援という形で入っていただくことがある。作家が使う材料の提供など色々なケースがある。

3館コラボレーションは、現在図書館、博物館と協議をしている。夏のプラティスラヴァ世界絵本原画展で、図書館や博物館で絵本に関する展示を予定し、スタンプラリーを実施する予定となっている。

委員 学校でもリトアニアとの関係は、どうするか話題になっている。美術館はどう考えているか。

事務局 リトアニアが平塚で合宿することが決まっている。リトアニアは民族衣装が綺麗であり、平塚市と交流もあるので、リトアニアに関する展覧会の可能性を現在調べている。

委員 最近親子連れや子どもが増え、展覧会や教育普及など子どもたちがどういう形で来たのか、どう変化したのか教えていただきたい。

事務局 今までは12月から翌3月までは美術館に来る方は少なかったが、最近は増えている。保

育園や小学校を対象に事業を行い観覧者が増えている。

委員のみなさまには、今後も教育普及に関して色々とお教えさせていただきたく、よろしくお願いしたい。

教育普及事業について

委員 中学校は美術館に行く移動の時間設定が出来ない。そこで美術館が養成しているボランティアの方々に中学校に来ていただき、作品のデジタル化などを使用して、先生から受ける授業とは異なることをやっていただける可能性はあるか。

事務局 対話による美術鑑賞は始めたばかりで、試行錯誤しながらも手応えはある。将来的には展覧会事業と同じように美術館を支える柱事業となる。現在はボランティアの2期生を育てている段階であり、将来的にはスキルも上がってくる。短い期間では、なかなか育たない。5年後くらいを目途に生涯学習の下支えとなる平塚モデルを考えていきたい。美術鑑賞内容のDVDを作成し、各方面にお渡しし見ていただきたい。

ボランティアが経験を積んでいくと子どもから話を聞くことが出来るようになり、スキルを磨いていく。何年か先には、中学校に出向くことは不可能ではない。